

きゅうりの紋もん — 川尻 —

むかし、川尻の村にはやり病が起り、村人達はこまっていました。
「このはやり病を神さんのお力でおさめてもらえんものやろかー。」
と村人達は口ぐちに言いあっていました。

そんなある日、久兵衛きゆうべゑさんが、川尻の海岸でわかめをとっていると、なにやら松の枝に鏡がかかり照り輝いているのです。久兵衛さんは不思議に思い家へ持って帰りました。

土間どまへ置いておくのも気味が悪かったので、久兵衛さんは神棚かみだらさんに祭って毎朝毎晩お祈りしたのです。

「村では、はやり病でたくさんの人が苦しんでいます。なんとか治して下さい。」

と、すると、久兵衛さんの気持が伝わったのでしょうか、はやり病がなおっていったのです。





村は、すっかり明るさをとりもどしました。

久兵衛さんは、さっそく村人達に話しました。

すると村人達はそろって

「これは、津島神社牛頭天王のご分霊かもしれない。」と言うのです。

そこで、村人達は、このままではいけないと祠を造り、祭ったのです。

そうしたある日、久兵衛さんが畑でとれた、きゅうりを切ると驚いたことに切り口が津島神社の紋とそっくり。久兵衛さんの熱心な信仰のため、紋がきゅうりにのり移ったのでした。

村人達はびっくりしました。そして、

「ありがたいことや。」

と言ってみんなはきゅうりの作付もせず、食べなくなったのです。

現在でも川尻のある農家では、きゅうりを作らないと古老が言っていてみました。



キーワード：みんな、川尻

このお話は、昭和56年に発行された書籍「明和のみんな」(野田那智子さん編著)をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしょうしています。